

TZ250 3TC

1990年 / レーサー

ヤマハ発動機は、空冷マシンTD-3の後継となる水冷2ストローク並列2気筒の市販レーサーのTZ250を1973年に登場させた。1976年以降、モノクロスサスペンションや前後輪ディスクブレーキを採用し、シャシーや運動性能の飛躍的な向上を図った。

1980年代から1990年代にかけてレースシーンでは2ストロークマシンが全盛となり、日本の主要メーカー4社は熾烈な技術開発競争を繰り広げた。

1980年代の特徴は、レーサーの技術を市販車に反映することで、当時の多くの若者たちが、より高いスペックでレーサーに近いデザインを喜んで受け入れた。その結果、日本国内では過去に例を見ない絶大なレーサーレプリカブームが巻き起こった。

3TCの開発は、当時エンジニアの「理想的な2ストロークエンジンは直線的な排気系統によって実現する」という信念のもと、それまでエンジンの後方から吸気を行い前方へ排気するという既成概念を打ち破り、エンジン前方から吸気を行い、後方へ直線的なチャンバーによって構成されるレイアウトを実現した。1991年にVツインエンジンを搭載したモデルが開発され2009年のモデル迄、30年以上に亘る熟成を重ねた。

